

Fontaine

nouvelle

vol. 42

発行日 2014年1月15日
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

年のはじめのたわごと



岸和田文化事業協会会長 松本 則子



今年も自泉会館とともに新しい年を迎えられたことを喜びたいと思います。

今年の干支は午です。午の字を見ているとお昼の正午と真夜中の午の刻、草木も眠る丑三つ時がなぜか頭に浮かんできます。私はテレビがまだ世になかった頃に幼少時代をすごしていたので、正午よりも「草木も眠る丑三つ時、東山参拾六方静かに眠る・・・」という徳川無声の声に思いが行き、頭の中は新撰組と鞍馬天狗がぐちゃぐちゃになってかけっこをします。

岸城塔原線を新産業道路と言って、黒々としたアスファルトの道を初めて見た頃の話です。アスファルトの道は夏になると熱ででこぼこになっていました。そのアスファルトの道路を車が走るたびに追いかけては喚声をあげていました。

車なんて数分に一台しか走ってなかったような気がします。車はトラックではなくて「バタコ」でしたが、それは私の育った上町の貧乏長屋にのみ通じるトラックの呼称でしょうか。

そのアスファルトの道を一歩中に入った上町の町中の道では荷車に荷物を満載した馬がパッカポッコとのどかに通っていました。

あの頃の子どもは寝る時とご飯を食べる時以外は家の外にいました。いや、これも私の育った貧乏長屋の特徴だったかもしれません。とにかく馬が通ると馬と一緒にわいわいがやがや歩くのです。よそ見をしないように目隠しされている馬がおかしくて、子どもたちも自分の手で目隠しを作って、笑い転げながら歩いていると、突然馬が

糞を落としたりおしっこを始めて、子どもたちはみんな飛び散って路地にはまり込んでいました。

パッカポッコも消え、バタバタと走る車の音もなくなるとウツボが穴から顔を出すように子どもたちが路地から出てきます。

たいていが棒の切れ端をもって、ちゃんばらごっこが始まりました。そこには近藤勇も鞍馬天狗も丹下佐膳もいて、いりみだれた戦いになりました。棒にまたがって馬に乗っているつもの者もいました。勤王も佐幕も攘夷も何もわからずに「春雨じゃ濡れていこう」とか「今宵の虎鉄は血に飢えている」とか言っては悦にいました。

ほんの60年前の子どもたちです。さらに60年と少しも遡れば、本物の切れば玉散る氷の刃を振り回している人もいた時代になるのですね。そこまでいなくても日本とアメリカが戦争していたということさえ知らない子どもたちが増えているそうです。

わずか100年の間にわらじが靴になり、宇宙のかなたで地球を見ている人もいる時代になっているのに、地上から争いが消えませんか。争いを止めよというのは馬の耳に念仏なのか、それとも人はみな馬耳東風を決め込んでいるのでしょうか。

馬の物覚えのように平和な世の中は忘れないで、今年はみんなで羽の生えた天馬にまたがって天高く飛翔する事を年の初めに祈念して、ええーい。(賽銭を張り込んで投げた掛け声です。)

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。

教育者・ 土屋 鳳洲 (下)

鳳洲は漢詩人、書家としても名があり、『日本漢詩』（新書漢文大系7・平成14年刊）にも七言絶句「山居雨後」が載っていて、大正8年（1919）の「日本書画評価一覧」には書家の部に名が載っています。こうした芸術分野での活動もあって、堺在住中は、堺大鳥神社の神官を勤めていた富岡鉄斎とも親しく、富岡鋏崖（堺時代の鉄斎の号）を訪ねる、という詩を残しています。

多方面で活躍した鳳洲ですが、最も評価に値するのは教育者としての活動ではないでしょうか。堺県の教育官僚・師範学校教員・校長としてだけではなく、私塾晩晴書院を通じて多くの青年に知識のみならず、生き方にも多大の影響を与えています。奥谷直司氏の『評伝・川口慧海』にも、チベット探検で知られた慧海にとって唯一師と呼べる人物が鳳洲であり、鳳洲のもとで得たものは大きかったと記されています。他にも、東京美術学校長、植物学者などが晩晴書院から出たとも書かれています。

晩晴書院は、漢学塾で、鳳洲は漢学者です。なぜ鳳洲の門下から多彩な人材が輩出したのでしょうか。

鳳洲が起草に関わった、河泉学校（教員養成機関）の開業講義畧では、「皇国（日本）

支那（中国）泰西（欧米）ノ諸学一ヲ欠ク可ラズ、又一ニ僻ス可ラズ」と、和漢洋を偏らずに教えること、文理にも偏らず教えることを強調しています。教官心得では、生徒を温和に教導し、打擲（暴力による）等の厳戒を加うべからず、とも規定していたことなど。鳳洲は、現在でも通ずる教育方針を持っていました。こうした教育方針が多彩な人材を生み出したのでしょうか。

泉南での門下生を紹介しましょう。一人は熊取の本多 栄です。七山病院を近代的な精神障害者の医療機関とする一方、地元七山の尋常小学校設立時に、敷地、建築費を提供し、長く学務委員も努めました。明治13年（1880）の大阪朝日新聞に掲載した広告には、「但シ貧窮ノ人ニハ當分施療施薬仕候事」とあり、貧窮者へは無料で診療をしてい

ました。栄の生き方には、貫名海屋の弟子であった父義懂（浄見寺住職）の教えと、晩年まで交流のあった鳳洲の影響も大きかったと思われます。

もう一人は岸和田の福井楠喜です。旧制岸和田中学校の国漢、書の教師を勤めるかわら、地元の人々の求めに応じて、鳳洲伝授の漢文と書で多くの碑文を残しました。岸和田市内では、岸和田高校グラウンド隅にある駐蹕記念碑（明治天皇が来られたことを記念した碑）、浪切ホール前の浪切神社にある表忠碑（日露戦争戦没者を弔った碑）の碑文はかれが書いたものです。

教育者鳳洲の蒔いた種は、各地のいろいろの分野で地域に貢献し、花を咲かせたというべきでしょう。



漢詩・書 鳳洲

Cultural Hot Spot In Kishiwada

府立久米田高校には、府下の高等学校では15・6校にしかない和太鼓のクラスが活動していると聞き、訪問してその活動の様子取材させていただきました。



久米田高校太鼓部の皆さん

大阪府立久米田高等学校 太鼓部 轟くりズム 躍動する若い肢体

躍動するしなやかさ、轟くりズム

顧問の増井邦廣先生にお話を伺いながら、練習を見せていただきました。

太鼓は、音階がなくリズムのみで表現する楽器です。生徒たち自身で作曲も作り、振り付けもして演奏しているとのこと。演奏が始まると、体に響く大音響と、若さを誇るしなやかに弾ける振り付けに、文字通り圧倒されました。

学校創立30周年記念事業としてクラブ設立

8年前、久米田高校は創立30周年を迎えるにあたり、その記念事業として「太鼓」を中心に据えることとなり、予算もつけて取り組まれました。

太鼓は、とても高価なものであり、数を揃え、周囲に大音響の迷惑をかけない練習場を必要とするなど、クラブの設立はなかなか難しいのですが、幸いにも条件が整って発足できたのです。初めの2年間は同好会として、3年目からクラブになりました。

部員も増え、力量も上がって

部員の集まらない年もありましたが、現在1年生が8人、2年生6人です。理想としては、30人は欲しいと先生は言われます。演奏の編成は、大太鼓、桶胴太鼓、締め太鼓、小太鼓、笛、チャップ、チャンチギなどです。



練習風景

楽譜は、久米田高校独自のものを作っています。技量についても高く評価されるようになってきています。

高齢者に力をあげて・自らも成長して

老人ホームなどに慰問に出かけて演奏する機会も多いそうです。お年寄りの人たちは涙を流して喜んでくれるそうで、それを見て、生徒たちは一層成長するそうです。もっとも、クラブでは運送の手段、経費はないので、依頼者をお願いしているとのこと。

素晴らしい刺激の機会を得て

8月には、インドネシアのバリ島で行われたジャパンフェスティバルに招かれて参加しました。バリは、音楽の中に生活があるというところなので、音楽やリズムに対する島民の感覚は半端ではありません。そんな中で演奏したことで大変大きな刺激を受け、ひと皮剥けたと増井先生は言われます。今後の更なる成長が期待出来ます。

これからは

大阪府高等学校音楽会や、同芸術文化祭という他校と交流し競う機会があります。

そこで良い成績を収めること、技術の上達が目標と皆それぞれ言っています。が野球で甲子園を目指すというような場ではありません。競争的ではなく純粋に音楽的に演奏の技術・力量の向上を目指すのです。そのためか、練習の雰囲気も厳しい中にも楽しく、見ていて本当に気持ちのいいものです。顧問の増井先生は、「これまで支えてくださった、地元の方たちにお返しをしていきたいというのが顧問としての願いです」と話されています。

これからもこの素晴らしい響きと躍動で多くの人々に感動を与え続けてほしいものと期待しています。

(取材・文 小島栄子・本郷元子)

土生町には熊野詣で有名な「熊野街道」のほかに、塔原に向かう「塔原街道」、泉佐野市大木へ向かう「大熊街道」などが通り、また作才町周辺には平安時代の歌人・和泉式部の伝説も多く残されています。今回は、平安時代から残る旧街道を歩き、伝説を訪ねてみましょう。

理事

藤田保平・齒黒猛夫

⑨夜泣き石

江戸時代、過酷な年貢に耐えかねた作才村の村人は、村を上げて逃げ出す(逃散)。その後、この辺りを通るかかった岸和田城主が元庄屋の敷地にあったこの石を、城内に運びこんだところ、毎夜「作才へいにたい、作才へいにたい」とすすり泣く声があったので、元の場所へ戻したという伝説が残る。

⑩慈光寺

浄土真宗本願寺派の寺院。

⑪共同井戸

旧津田川の河床上に位置し、水が湧き出、地域の人たちの洗濯場となっている。以前は炊事などにも活用され、情報の集積場所でもあった。

⑫どんび淵

和泉式部が筆を投げ入れると、カエルが鳴きやんだという伝説が残り、石碑には「かわずなかつのどんび淵」と記されている。

⑬恋ざめの淵

和泉式部がここで顔を洗ったところ、恋が冷めたという伝説が残る。

⑭恋の淵

和泉式部が思いを寄せる男性と一緒にここで顔を洗うと、恋が成就したという伝説が残る。ただ、和泉式部自身は和泉の国に住んだことがなく、訪れた記録もない。それゆえ、多くの伝説は「熊野比丘尼」と呼ばれる女性達が残したものだと考えられている。

今回はスタートとゴールが東岸和田駅。駅を降りて、そのまま和歌山方向へ進み、岸城塔原線をわたれば、大きなビルの側に地藏尊が安置されています。そのまま、カーブを描く道を進み、府道と泉泉南線を渡ってしばらく歩くと、右方向に「道ノ池」が見えてきます。この池の堤に沿って、熊野街道と塔原街道が延びていて、分岐点には「道標の地藏」が祀られています。舗装されていない道を山側へ進み、流木斎場に通じる幹線道路を左に曲がると、交番があります。その裏にあるのが「土生墓」です。元の場所に戻って変電所の角を左に曲がり、真つ直ぐ進むと「土生神社」に到着します。神社の前を横切る道が大熊街道です。大熊街道を大阪方向に進み、信号を渡ってしばらく歩くと、「正光寺」と「西向寺」が見え、直進して突き当たりを左に曲がると五叉路があり、鮮魚店の前に「道標の地藏」があります。酒店の角を右方向に進んでいくと点滅信号があり、交差する道が熊野街道。右に曲がって斜めに進み、信号を渡ると「慈光寺」の前に「夜泣き石」があり、もうしばらく歩くと「共同井戸」があります。元の信号に戻って道路を渡り、左折してしばらく歩くと、「どんび淵」、信号に戻り左折してしばらく歩くと、住宅街の入り口に真新しい石碑があり、中に進むと「恋ざめの淵」、元の道に戻り、左に曲がって山側に進むと酒や薬を扱っている商店があり、その角を左折して路地に入ると「恋の淵」です。泉泉南線に戻り、和歌山方向に進めば東岸和田駅でゴール。岸城塔原線や和泉泉南線などの道路は車が多く、横断には無理をせずに、遠回りしても横断歩道を渡ってください。また、和泉式部の伝説は上松町や下松町にもあり、別のコースでそれだけを訪ねるのもおもしろいでしょう。

岸和田 あ・ら・か・る・と

広報部会 和田 正則



とんど祭り



岸和田市ではすっかり見られなくなりましたが竹を組んで立て、その中に「書き初め」や「お正月のメ飾り」などを入れて燃やし、その火で「餅や芋類」を焼いて食べる小正月の行事です。

写真は岸和田市岡山町が三小路(大西、山出、東出)合同で久米田池において成人の日の前後の夕方に点火する「とんど」の風景です。

岡山町の記録によると、以前は各小路で実施していましたが中止になり、昭和60年より三小路が合同で久米田池で再開しています。岡山町の位置する山直地域では各町が町をあげて取り組んでいましたが、ため池を埋めたり、水田の減反等の理由で安全な場所がなくなり、現存する久米田池の「とんど祭り」は貴重な存在です。

※ 広報部会長の和田正則氏が12月10日に逝去されました。

この「あ・ら・か・る・と」欄及び8面の「編集後記」が遺稿となりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

ユネスコ世界文化遺産の演劇「能」

やってみて、 もっとおもしろさが わかった!!



赤松先生とその仲間たち

昨年10月に開催された三館(浪切ホール・マドカホール・自泉会館)合同事業「岸和田能」に参加された方が、今もそのまま能のお稽古を続けられています。

皆さんに当時の心境、そして現在のお気持ちを取材させていただきました。

.....

■岸和田能に応募したきっかけは？

市の広報紙や浪切ホールの広報紙(Nami^{×2})等で、岸和田能の公募を見て「こういうことができるんだ」「チャンスがあるならやってみよう」と気楽な気持ちで応募しました。

■おけいこのようすはいかがでしたか？

応募者14名が全員、まったくの未経験者でした。でも教えてくださる赤松禎英先生がとても優しく同じところを間違えても何度も何度も丁寧に教えて頂きお稽古はすごく楽しく、また知らない世界のことを覚えていくのはとても刺激的でした。

■どのようにして練習されましたか？

*面(おもて)をつけて舞われた人…娘に夜店でお面を買ってきてもらい、そのお面がひょっとこのお面だったため、目のところにセロテープを張って細めにして、先生の舞われたDVDを何度も繰り返し見て練習しました。

*仕舞を舞われた人…謡曲を初めて聞いたときは「これって英語？」と思いました。ゴマ(楽譜)はありますがまったくわからず、すべて先生から



岸和田能「吉野天人」

の口移し状態で覚えました。所作もあり両方を同時に覚えるのは大変で、DVDやボイスレコーダーで先生の舞いを録画録音して練習しました。

■参加してよかったと思うことはありますか？

*毎日家で練習をしていたら、息子が能に関心を持ち、日頃口数の少ない息子との共通の話題ができました。

*「お母さんのように私も舞台に立ちたい」と娘が言って、今親子で赤松先生に能を教えて頂いています。

*私たちが練習に行くと先生はすでにお稽古をされていました。そして「何事もやってみなければその良さはわからない」と常に背中を押して下さいました。失敗しても舞台に立ちたいという気持ちは、どんなことにも通じていく生き方だと思います。

■現在

月2回マドカホールでお稽古をしています。教えて下さっているのはもちろん赤松先生です。「みんな正座する練習から入ったほどで、まったく能のことを知らなくても大丈夫です。是非一緒にお稽古しませんか」と、みなさんからの誘いです。

参加ご希望の方は、072-428-0462(上田さん)までご連絡ください。

■最後に赤松先生から

岸和田はお城がある文化的な町です。このような町であるからこそ、伝統芸能を継承してもらいたいと願っています。

(取材・文 小島栄子・本郷元子)

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

第36回自泉フレッシュコンサート ～真夏のさわやかコンサート～

平成25年7月27日(土)

ピアノとソプラノのコンサートを自泉会館ホール
で実施し、16人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆もう数曲オペラアリアを聴きたかった。2曲ある「夜の女王」のアリアの中、難曲の方を選ばれた積極的な意欲に敬意を表します。
- ◆とても楽しく聴かせていただきました。
- ◆良い刺激をいただきました。



岸和田能 秋の名曲を観る会「巴」

平成25年10月25日(金)

〈皆さんの声〉

- ◆初めての鑑賞でしたが、とても良かったです。あらすじが書いてあったので、良く分かりました。
- ◆最初に、能や能楽堂についてのお話があったので、白洲や昔の形式の舞台、「巴」についてより深く感じられたと思います。
- ◆岸和田能、出来れば毎年続けてください。杉江能楽堂の雰囲気は素晴らしいです。とても落ち着きます。
- ◆静かな雨音に、尚一層舞台が映えました。
- ◆初めて杉江能楽堂を訪問させていただきました。何とも言えない雰囲気に驚きと感動を覚えました。

杉江能楽堂で赤松禎英氏による能楽「巴」を実施し、126人の入場者がありました。

第37回自泉フレッシュコンサート ～秋に思いをはせて～

平成25年10月27日(日)

ピアノ、ソプラノ、ピアノデュオのコンサートを自泉会館ホールで実施し、74人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆普段なかなかピアノを聴くこともない素人ですが、力強い歌声と伴奏を聴けて良い週末を過ごせました。
- ◆手頃な料金で生の演奏を子どもと気軽に聴くことができ良かったです。
- ◆休憩時に茶菓子までご用意くださり、有難うございました。
- ◆若い音楽家を応援し育てる良い機会を一つでも多くという素晴らしい企画だと思います。今後も続けていってください。
- ◆曲目解説があり、楽しめました。



手作りフレグランス 体験講習会

平成25年10月29日(火)

〈皆さんの声〉

- ◆マイフレグランスを作ることができて良かったです。
- ◆フレッシュハーブティの作り方を教わることができて良かったです。
- ◆香りの奥深いお話が聞くことが出来良かったです。
- ◆香りに興味を持ちました。頭痛が少しずつ治ってきたように思いました。
- ◆ハーブティを飲みながら・・・というのが良かったです。とても美味しいブレンドでした。
- ◆アロマは初めて。不思議な世界だと思いました。

堀田邦子氏に講師をお願いし、天然の精油(エッセンシャルオイル)を使ったオリジナルな香り作りを楽しみました。

音楽世界旅 Vol.9 スペイン編

平成25年11月30日(土)

レクチャー・コンサート「悲哀と歓喜 情念の芸術 フラメンコ」を実施し、91人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆間近でフラメンコの迫力を感じました。踊り、ギター、バイレとても素晴らしかったです。
- ◆大興奮です。素晴らしかった。スペインの風を感じました。
- ◆自泉会館ホールに響くギターとダンサーの音色に感動しました。フラメンコにこのホールがとても合うと思いました。
- ◆いつもながら西岡先生のお話が楽しく、ステキな音楽とダンスで楽しいひとときを過ごすことができました。
- ◆身近で見せてもらい、とても良かったです。シリーズを楽しみにしています。



第38回自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

平成25年12月13日(金)

〈皆さんの声〉

- ◆一人一人曲調が違って、聴いていて心地よかったです。
- ◆素晴らしいコンサートでした。
- ◆素敵なホールですね。途中から拝聴しましたが、3名の演奏者とも素晴らしかったです。
- ◆色々な作曲家の雰囲気が、それぞれ出ている良かったです。
- ◆若い方の演奏が聴けて良かったです。ご活躍を楽しみにしています。
- ◆出演者の方々はまだ若いのに、とてもピアノの技量が優れているのに驚きました。フレッシュコンサートとは思えないくらいです。

3人のピアニストによるコンサートを自泉会館ホールで実施し、32人の入場者がありました。

岸和田文化事業協会の事業 Information

第3回

自泉ジュニア コンサート



オーディションで選ばれた
小学生～高校生によるコンサート

日時:平成26年2月23日(日)
午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:無料(当日先着100名まで)

第7回フレッシュプレミアムコンサート

～未来へここから～

25年度自泉フレッシュコンサート出演者の中から優秀な方を推薦し、お披露目をいたします。さらに、その中から最優秀賞・優秀賞(若干名)を選出いたします。

日時:平成26年3月29日(土)午後5時開演

会場:マドカホール(岸和田市立文化会館)

入場料:前売1,000円(当日各200円増)

出演者:中西 勇介 Yusuke Nakanishi (ギター)
伊石 昂平 Kohei Iseki (チェロ)
伊石 有里 Yuri Iseki (ピアノ)
木村 結 Yui Kimura (ピアノ)
武井 真穂 Maho Takei (ソプラノ)
浦瀬安希子 Akiko Urase (ピアノ)
奥永 亜矢 Aya Okunaga (ソプラノ)
大西 真衣 Mai Onishi (ピアノ)
山西麻紀子 Makiko Yamanishi (ピアノ)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

平成26年度(平成26年4月～平成27年3月)

会員募集

年会費(入会費不要)

個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は
口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的にしています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化
情報

隗展

日時:H26年1月30日(木)～2月2日(日) 午前10時～午後5時

会場:岸和田市立文化会館(マドカホール)

入場料:無料

主催:岸和田美術の会

共催:岸和田市・岸和田市教育委員会

問合せ:岸和田美術の会事務局(あまの)TEL072-445-1070

nouvelle
Fontaine vol.42

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2014年1月15日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・小島栄子・齒黒猛夫
藤田保平・本郷元子

編集後記...

時代は変わると言いますが、昨年から明らかに世界が動き出している感じを受けています。

私が心配しているのは若い人たちの失業が増えていることです。若者がその不満を社会に向けた時に社会不安に発展することがよくあります。

では若者が生き生きとしている世の中はどうしたらできるか?私にはわかりませんが解決策の一つは機会を与えることかなと思います。

岸和田文化事業協会も時代に遅れることなく、若い人たちの活力を取り込みながら良い方向に向かえるように微力ながら努力をしたいと思います。(和田正則)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/> 岸和田文化事業協会

検索